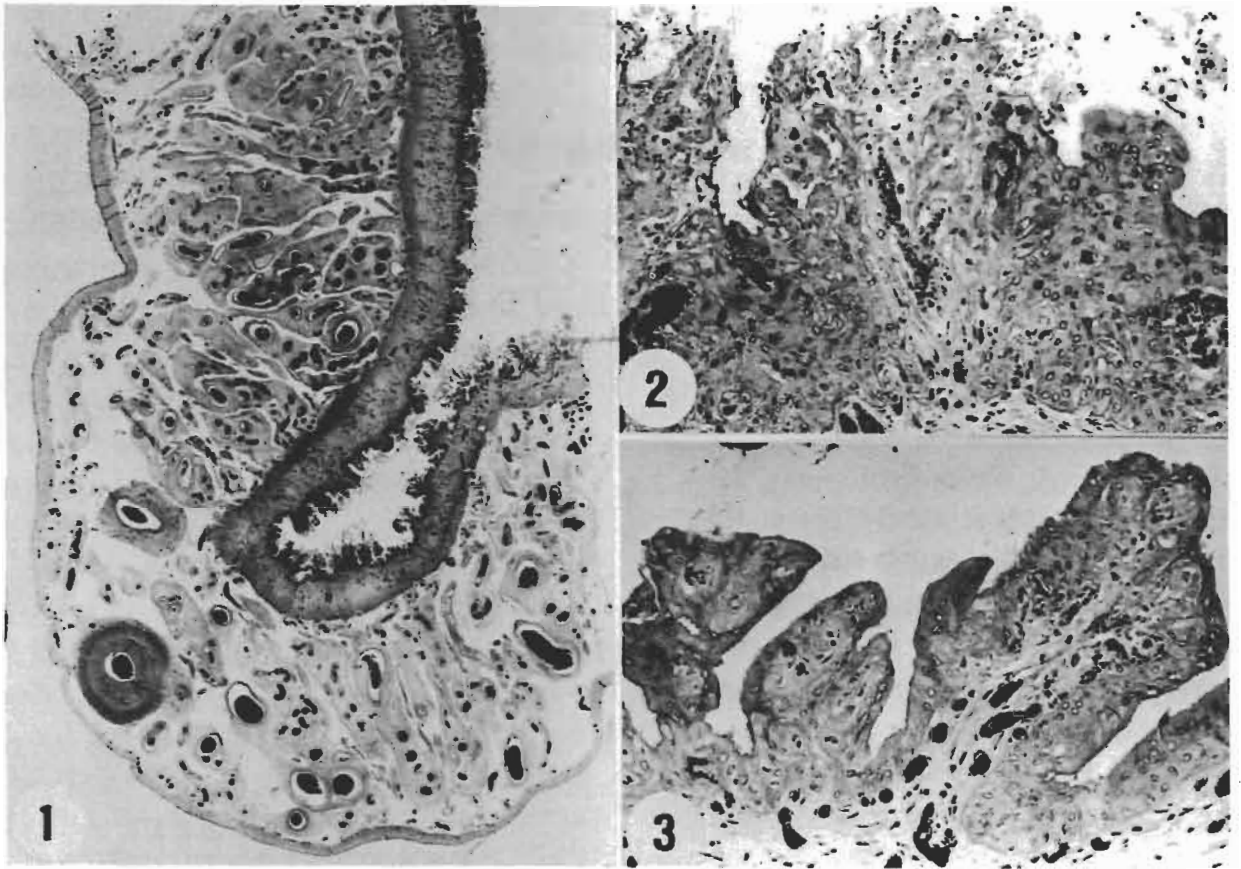


# ウマの胎膜

競走馬総合研究所病理研究室出題 第30回獣医病理学研修会標本No.530



動物：ウマ，サラブレッド種，繋養地北海道。

**臨床事項：**死産子（胎齢 339 日）の胎膜が病理検査材料として搬入された。稟告によれば，分娩状況は難産で，胎子は産出される直前に斃死したと思われた。外見上胎子には著変が見られず，母馬の妊娠中の健康状態は正常であった。なお，母馬は 4 歳から繁殖雌馬として供用され，今回の死産時（11 歳）までに 7 回の産歴を有し，2 産目に死産の前歴がある以外は正常分娩で，子馬に異常を認めなかった。

**肉眼所見：**妊角先端部の絨毛膜面に約 1 小児手掌面大の周囲組織との境界が比較的明瞭な不整形の茶褐色粗糙化巣（提出標本）が観察された。当該病巣を含めた妊角先端部の絨毛膜絨毛の分布密度は粗であった。また，これらの領域の絨毛膜尿膜の壁の厚さは著しく増していた。

**組織所見：**絨毛膜尿膜は組織学的に絨毛，絨毛下結合組織，血管層，尿膜下結合組織及び尿膜上皮の 5 層から構成されていた（写真 1，H E， $\times 5$ ）。これら各層の中でも，特に絨毛の変化が注目された。すなわち絨毛膜絨毛は短小で，分枝絨毛に乏しかった。これら絨毛はしばしば出血や壊死（写真 2，H E， $\times 110$ ）を示し，絨毛上

皮細胞は重層扁平上皮化生や錯角化（写真 3，H E， $\times 110$ ）を伴うことが多かった。また絨毛上皮細胞直下の基底膜は肥厚を示し，絨毛間質は線維成分の増生ならびに毛細血管の分布に乏しく，特に上皮細胞直下の毛細血管網の発達は不良であった。この他，絨毛下結合組織及び尿膜下結合組織は線維増生，血管層は血管の増数，血管周囲性疎性結合組織の水腫性肥厚及び胚外体腔の拡張，ならびに尿膜上皮は巢状性雑変化等を示した。

**考察：**今回観察された絨毛の諸変化は発育障害（絨毛低形成）ならびに胎盤低酸素症及び虚血の組織変化（絨毛壊死及び出血，基底膜肥厚，絨毛間質の線維化等）と解された。一方，絨毛の成熟度の良き指標とされる菲薄化した絨毛上皮細胞及びその直下に分布する豊富な毛細血管網の構造は発達に乏しかったことから，未熟な絨毛であると考えられ，しかも母子間の物質交換には不利な構造と思われた。なお，妊角先端部におけるこの種の絨毛の諸変化をRooney（1970）は胎盤早期剥離として記載している。

**病理組織学的診断：**ウマの胎膜における未熟な絨毛の重層扁平上皮化生及び壊死。